



旭山記念公園の自然の話題をピックアップ2022年

2022年も終わろうとしています、旭山の自然に関する今年の話題をピックアップしてみました。

●エナガ団子がついに見られた！

5月25日、シマエナガ幼鳥12羽が巣立ち、「エナガ団子」が見られました。「エナガ団子」が旭山で見られたのは少なくとも2010年以降では初めてのことでした。

写真は4羽ですが、9羽の「エナガ団子」が見られた日もありました。



●フラワーソン2022開催！

5年に一度、全道いっせいに開花している植物を調べる「フラワーソン2022」が6月18、19日2日間行われ、旭山もグループで参加しました。園内と旭山都市環境林を調べた結果、68種の花が確認され、うち23種、約1/3が外来種でした。

旭山都市環境林では旭山初出オニシモツケ(左写真)が咲いていました。フラワーソン、次回は2027年に開催されます。



●エゾリスが増えた

2021年はエゾリスを見る機会が少なくなり心配していましたが、今年は再びよく見られるようになりひと安心。

風の丘周辺では以前ほぼ必ず見られていたのが昨年はほとんど見られず、しかし今年は復活しそこに行けばいつでも見られるくらいにいます。

遊具広場周辺は以前あまりいなかったですが、今はよく見られています。旭山といえばエゾリス。今後もそうあってほしいです。



●ミヤマクワガタ雄とキベリタテハ

旭山では例年雄のミヤマクワガタ(右写真左)はあまり見られないのですが、今年は見ることが比較的多く感じられました。

また、旭山ではややレアな蝶で数年に一度しか見られないキベリタテハ(右写真右)が今年は夏場に何度か見られました。

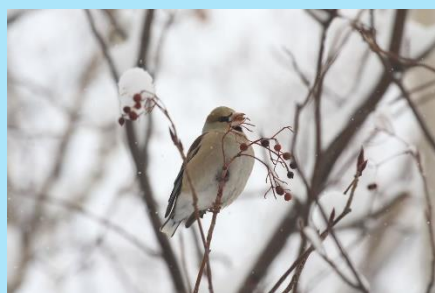


●冬鳥が異様に少なかった昨冬

2021-22年の冬は冬鳥が異様に少なく、特に例年冬には普通に見られるシメ(左写真)をたまに見るだけ、こんな冬は初めてのことでした。

その前の冬はマヒワとベニヒワで400羽以上が飛び交う冬鳥が多い年でしたが、それだけ冬鳥が多かった冬も逆に初めてのことであり、そのギャップがあまりにも大きすぎてがっかりしたものです。

今冬は今のところ平年よりやや少くらいで昨冬ほどではないです。



今年度のレストハウス「ぽるく」営業は11月13日(日曜日)にて、
噴水運転は10月31日(月曜日)にて終了しました

旭山野鳥メモ④ウソ

ウソ Eurasian Bullfinch *Pyrrhula pyrrhula* スズメ目アトリ科

旭山では秋から春に見られる。中島公園など平地にも現れる。

雄(右写真)の頬はピンク色で体は灰色、雌は頬茶褐色で体は薄茶色。

亜種ウソは道内山岳地帯で繁殖し秋に低地に移動し越冬。亜種アカウソは雄の体が赤茶色、数少ない冬鳥だがほぼ毎年見られる。亜種ベニバラウソは雄の体が全面ピンク色、欧州で普通だが日本では稀な冬鳥、旭山では今まで2度記録。

桜などバラ科の冬芽が好物で梅園や果樹園では害鳥扱いされる。食べかすを嘴の周りにいっぴいつける姿はまるで食いしん坊。

江戸時代、口笛を吹くことを「うそぶく」といい、ウソの「フィツ」と鳴く声が口笛に似ていることが名前の由来。その鳴き声は柔らかい音色だが意外と遠くまで聞こえる。雄は春先に音をつなげて旋律があるようなないような声で鳴き、それが囁きと思われるが、旭山ではあまり聞かれない。

太宰府天満宮を発祥とした「鶯(うそ)替え」という行事が各地の神社で行われ、これは正月近くに木彫りの鶯を新しいものに替えて前年の災厄などを「嘘」として流すというもの。太宰府天満宮周辺には「うその餅」というお土産があり、中に素焼きの鶯の人形が入っているが年末年始だけそれが木彫りになるという。

旭山では2010年頃まではよく見られる身近な鳥だったが、近年はときどき見られる程度になっている。ふっくらとした体つき、愛嬌があってどこかユーモラスなウソ、冬に見ると心が温まる野鳥だ。



2022年12月の野鳥トピックス

- ・キレンジャク: 40~50羽の群れがほぼ毎日見られています
- ・ヒレンジャク: 12月からやっと平年並に見られるようになりました
- ・ツグミ(右写真): 学びの森付近で見られることが多くなりました
- ・カケス(亜種ミヤマカケス): 園内でほぼ毎日見られています
- ・キクイタダキ: 見られる機会が増えました
- ・クマゲラ: 園内で時々見られていますが観察機会は多くはないです
- ・ハシブトガラ、ヒガラ: 12月に入って初鳴きが聞かれました
- ・シマエナガ: 日に何度か森の家の周りで見られています



2022年木の実のできはどうだったか？

旭山記念公園の木の実、今年のできはどうだった！？

- ・ミズナラのどんぐり=並み: どんぐり拾いには十分の量が実りました。
- ・クリ=不作: 食べられるほど大きな栗はほとんど見かけませんでした。
- ・アズキナシ=大豊作: 去年はほぼ0でしたが、今年は鳥が実を食べに来る姿が見られるでしょう(上のツグミの写真の実がアズキナシ)。
- ・オニグルミ=大豊作: 夏に園内にたくさん落ちていてエゾリスも大喜び。
- ・ヤマブドウ=豊作: こんな所にもあったのかというくらいなっていました。
- ・ヌルデ(右写真)=やや豊作: 野鳥の冬の塩分補給源、よくなっています。
- ・ツリバナ=豊作: 旭山では木自体が少ないですが今年は市内各所でたくさんなっているのを見ました。
- ・アカミヤドリギ=やや不作: 今年は来るのも遅かったレンジャクもようやく寄って来るようになりました。
- ・イチイ=やや不作: 木によってばらつきがありましたが、なっている木にヤマガラが採餌に来ていました。
- ・ヨーロッパトウヒ=豊作: 去年はほぼ0でエゾリスたちが心配でしたが今年は一転大豊作でひと安心。
- ・ナナカマド=? : 街路樹や他の公園では平年並みになっているように見えますが、旭山ではほとんど実は見られません。昨年もほぼ0でしたが、どうやら旭山には勢いのある木がごく少ないようで、そのため実があまり見られない可能性があります。若い木が育って実がたくさんなるようになればいいのですが。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第108号 2022(令和4)年12月9日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351